

令和6年度 第3回 高岡市在宅医療・介護等連携推進協議会 議事録

日 時 令和7年3月6日（木） 19時～20時

場 所 高岡市ふれあい福祉センター 多目的ホール

出席者

- ・委員：18名（狩野委員、古野委員 欠席）
- ・アドバイザー：1名

1. 開会挨拶

2. 部長挨拶

3. 報告・協議事項

- （1）高岡市在宅医療・介護連携等推進協議会 部会・ワーキングの令和6年度の実施状況及び令和7年度実施計画（案）について

【資料No. 1-1～5】

- （2）在宅医療を担う医師確保等の検討ワーキングの令和6年度の実績状況及び令和7年度実施計画（案）について

【資料No. 1-6】

- （3）高岡市在宅医療・介護等連携推進協議会の活動体系図（仮）について

【資料No. 2】

4. 意見交換

（1）高岡市在宅医療・介護連携等連携推進協議会の活動体系図（仮）

〔会長〕

- ・高岡市在宅医療・介護連携等連携推進協議会の活動体系図（仮）（以下体系図）をみると、右側に長期の目標とその指標があり、左側に協議会やワーキングの活動があるなど、流れがわかりやすくなった。協議会やワーキングの活動の左側にワーキンググループのマークが記載されているが、記載されていない箇所もあり、これはどのように考えていけばよいか。

〔事務局〕

- ・マークがついていない箇所は再掲である。全てのワーキングで網羅している。

〔アドバイザー〕

- ・短期の目標、中期の目標、長期の目標と設定し、目標達成していくことがわかりやすくなった。ただし、中期の目標、長期の目標は、ワーキングの積み重ねだけで達成できるものではなく、他の要素も入ってくる。短期の目標が達成できるということは、各ワーキングが活動されているということである。長期の目標は、長期の目標に関連する様々な要因を整理した上で、ワーキングで何ができるかを考えていく必要がある。どの方向を目指して活動をしていくかを委員で共有する目的では体系図は活用できると考える。体系図を見ると、在宅医療・介護等の全てに関連していくところがみえてくる。指標については、少し検討が必要である。

〔委員〕

- ・ 1点目は、体系図の中に、短期、中期、長期の目標があるが、どれくらいの期間での達成を目指しているのか。2点目は、長期目標について、厚生労働省が掲げる在宅医療と介護連携における4つの場面と災害支援で分類されており、とても重要だと感じるため、もう少し大きい文字にしてわかりやすくしてはどうか。

〔事務局〕

- ・ 1点目の期間については、まだ実績値が把握できていないものもある。実績値を把握した上で再度検討していく。2点目については、見やすくする工夫をしていく。

〔委員〕

- ・ 体系図について、第2回 在宅医療・介護等連携部会で提示された図よりもわかりやすくなっている。今までは全体像がわからなかったため、この体系図で全体像が理解できてよかった。

〔委員〕

- ・ 委員が体系図を理解していかなないと、この体系図の意味がない。体系図は一つのツールでしかなく、なぜこの体系図が必要なのかを理解するための説明の機会が必要である。事務局が体系図を作成し、「～しましょう」ではなく、本来は協議会での議論の中で作り上げていく必要がある。指標に関しては、すごく難しいところである。数字ですぐ出る指標もあるが、プロセス指標も必要になってくる。評価方法をワーキングの中で検討できるかどうか、また誰が統括していくかが課題である。最終目標は何をもって評価するかも記載されていない。

〔事務局〕

- ・ 最終目標をどう評価するか難しい部分もあるが、自分がこのような人生を歩きたいと意思表示していただき、その意思を周囲と共有し、少しでもその人生に近づくことができるように周囲の支援が必要だと考える。来年度から若い世代もACPに取り組んでいただけるよう高齢者に限らず、誰もが自分の人生を考えていただき、記録して共有するツールとして、アプリで作成予定である。まずはACPを普及していく中で、少しでも最終目標に近づけていくようにしていきたい。

〔会長〕

- ・ 協議会に関して、他市町村などの先行事例があれば参考にするとよい。

〔委員〕

- ・ 公的病院の医師がなぜこの協議会に参加しているのかの意味が理解できない。体系図に主語がない。啓発に関しても、誰が、誰に対して、いつ、どこで啓発するのかの記載がない。どういう世の中を目指してやっているのかの理解もできていないため、林委員が話された、なぜこの協議会が必要かの説明が必要である。

(2) 在宅支援ワーキングについて

〔会長〕

- ・ 資料No. 1-2では、災害時の連携についての検討を行うと記載があるが、来年度災害の取り組みが追加された理由があるのか。

〔事務局〕

- ・ 避難行動要支援者名簿の作成について、障がい、介護支援分野のご協力をいただきながら進めていきたいと思っている。在宅支援ワーキングの中でも、さらに在宅医療・障がい者・高齢者を含めた災害支援について検討していきたいと考えている。

〔委員〕

- ・研修会について、居宅介護支援事業者部会では、障がい支援分野について聞きたいという意見があった。

〔委員〕

- ・研修会について、体系図にあがっている、多職種連携や ACP について理解を深めたいと感じた。

〔委員〕

- ・体系図の「日常療養支援」のところで、訪問診療、訪問看護、訪問薬剤指導の指標があるが、他にサービスとして、訪問リハや訪問栄養食事指導もある。これらについても体系図に落とし込み、研修会を企画するのによいのではないか。多職種で、訪問リハビリ、訪問栄養食事指導、訪問薬剤指導等の実際のサービス内容について知る機会を設け、ケアマネジャーがケアプランに入れ込むことや、他の職種の方からケアプランに入れたらどうかなどの提案ができたりすれば、多職種連携が進むのではないか。

〔委員〕

- ・退院時カンファレンスをする際に、薬の効き方を確認したいため、血液データ等の情報がほしい。また、協議会の取り組み内容を各所属に広めるため、薬剤師会等関係団体に説明をしていただけるのか。

〔事務局〕

- ・声をかけていただければ説明させていただきたい。

〔委員〕

- ・県作業療法士会の学会が先日あり、災害時の対応のテーマであった。災害時に何ができるか事務所で研修を行っているが、実際に災害が起こった時にどのような対応が行われているか研修で聞けるとよい。

〔事務局〕

- ・後程、社会福祉課から説明させていただくが、現在は、避難行動に対して支援が必要な方の把握及び、その方の個別の避難計画を立てるところを強化していきたいと考えている。

〔委員〕

- ・将来的に地区で増える疾患として、誤嚥性肺炎、心不全、脳卒中、骨折が挙げられており、在宅から急性期病院に行くと言われている。例えば誤嚥性肺炎、骨折などに対し、この地区ではこのようなルールやシステムを作ったという観点の研修会もあってもよいのではないか。

(3) 情報共有ワーキングについて

〔会長〕

- ・以前から多職種共通の情報共有ツールがあればよいという声を聞いていた。高岡多職種ネットも便利ではあるが、多職種が共通して使用できるツールがあれば、患者の把握に繋がる。

(4) 普及啓発ワーキングについて

〔委員〕

- ・認知症がひどくなってからや、疾患がわかってから ACP を行っても色々なバイアスがかかる場合がある。アンケート結果から、人生いきいきノートはまだまだ普及していないように感じる。医療者からみると、患者さんが来た際に人生いきいきノートのようなものを

所持していたら役に立つと考える。もっと人生いきいきノートを普及させていただきたい。

〔委員〕

・がん領域は退院カンファレンスがあり、医療者同士の顔の見える関係が作れているように感じるが、その他の領域では、病院で診療している立場と、在宅診療にはまだ距離感がある。がんの ACP はとても有効であると感じるが、元気なうちから ACP をしても漠然としており、これが ACP が進んでいない要因ではないかと考える。例えば、救急搬送され、生死を意識して始めて、死を意識し、ADL がこれだけ下がった、障がいが残ったとなった段階で ACP は進んでいくのではないか。このような状況になった際のサポートの充実が必要である。

5. 連絡事項

- ・避難行動要支援者名簿と個別避難計画について

【資料 No. 3】（事務局説明）

6. 閉会